

保育内容「音楽表現Ⅱ」の授業実践報告 —基礎リズムの指導法—

松 井 いずみ

Report on “Music Expression II” for the Pre-education Students —Instruction Method of the basics rhythm—

Izumi MATSUI

本稿は、保育を専攻する短期大学2年生の、保育内容「音楽表現Ⅱ」の授業実践報告である。この授業は、幼稚園、保育園で必要とされている幼児音楽教育を中心に行い、今回はそのカリキュラムのひとつであるリトミック教育の内容を取り上げた。幼稚園教育要領にもある「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目的として、学生が基礎リズムの指導法を創作し、発表した過程や内容を報告したものである。子どものために作ったものではあるが、学生自身の想像力、創造力、表現力、コミュニケーション能力、音楽的能力に大いに役立つものであった。

キーワード：リトミック、基礎リズム、想像力、表現力、創作、コミュニケーション能力

I はじめに

リトミック (rythmique) はスイスの音楽教育家・作曲家であるエミール・ジャック＝ダルクローズ (1865～1950) によって確立された音楽教育法であるが、近年ではリトミックが人間の生きる力の基礎を育てるのにも役立つと考えられ、音楽的な教育にとどまらず、幼児教育、障がい者や高齢者の活動など、様々な分野で注目されるようになった。生きる力の基礎とは、集中力、創造力、想像力、順応性、思考力、判断力、記憶力など、誰もが持つ基礎的な能力のことである。

さらに21世紀の子どもたちにはコミュニケーション能力や、表現力がより求められている。文部科学省(2011)では、

- ・自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とともに、それぞれ異なる意見や考え、アイディアなどを交換し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない。
- ・自己を見つめつつ、多様な他者、文化の中で生きていくために、積極的な「開かれた個」(自己

を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる個人) であることが求められる。

としている。

リトミックはこれらの課題に対し効果が期待できる教育法であると筆者は考える。子どもたちは音楽を全身で感じながら動くことで、リズム感、音感を養うことができるだけでなく、感じたことを自分で考え、自由に表現し、認め合うことで、自己を確立しつつ他者を受容していくことができる。これからの保育の現場では、リトミック教育のできる保育者がますます求められるだろう。

そこで、本校の保育者を目指す学生らがリトミックに興味を持ち、積極的に授業に取り組み、会得した感性や技術を将来保育の現場に導入していけることを期待し、授業の中で基礎リズム(四分音符、八分音符、二分音符)を使った指導法の創作を試みた。本稿では、学生の取り組みや活動の様子などを報告

し考察する。

II 基礎リズムのステップ

本稿では、四分音符、八分音符、二分音符の3つの基本的なリズムを基礎リズムとして取り扱う。人間の根底に流れる規則的なこのビートこそ、リズムの基礎であると考ええる。

リトミック活動の中に、ピアノが奏でる基礎リズムに合わせて歩くというものがある。これはリトミックの基本的な活動であり、音楽にびたりと合わせて歩くだけでも様々な感覚を必要とし、そこから修得できるものも多い。幼児に於いては、音楽を集中して聴く力、身体の動きをコントロールする力、持続する力などが必要になる。

女優、エッセイスト、ユニセフ親善大使でもある黒柳徹子（1981）は、子どもの頃にリトミックを経験しており、自著であるベストセラー『窓際のトットちゃん』の中で「それぞれ、その子らしい表情で、のびのびと手足を動かし、いかにも気持よさそうに跳びはねて、しかも、リズムに、きっちりあっているという光景は、いいものだった」と表現している。

筆者は現在も保育園などでリトミックを行っているが、そこでも基礎リズムのステップの音楽を弾き始めると、子どもたちは顔を見合わせながら嬉々として歩き始めるのである。時代や場所を変えても、音楽やリズムと身体がびたりと合うことは精神的にも充足感、達成感を得ることができるのだろう。

III 授業の計画と展開

今回の創作は、子どもたちが基礎リズムを経験できる表現方法を考え、更にそこに情景やイメージを持たせようとするものである。リズムに対してただ機械的に足並みを揃えるだけでなく、イメージをいっばいに膨らませて表現することを大切にしていきたい。想像力や表現力は、まさに今、子どもたちに求められているコミュニケーション能力に直結するだろう。

学生らが協力して作品を作り、発表するまでに4回分の授業を必要とした。

- ① 幼児が基礎リズムでステップしている様子をDVDで伝える。また、筆者が創作し、実際に幼児に指導している作品を紹介する。
- ② 四分音符、八分音符、二分音符、各リズムの

イメージを考え発表し合う。その後、6～7人のグループに分かれ、指導法の創作に取り掛かる。

- ③ 学生全員、最低限のピアノ伴奏ができるように、課題を出し、一人ずつチェックを行う。他の学生は待ち時間に創作の続きを行う。
- ④ 授業の前半は練習のまとめ、後半は作品発表会、感想アンケートの実施など。

IV ①実際の様子を伝える

まずは、これからどんなことをしようとしているのか、どんな効果があり、子どもたちはどんな様子なのかを学生らに伝えるために、筆者が実際に園で指導している様子のDVDを見せたり、実際に演じさせたりしながら、いくつかの作品を紹介した。

DVDの内容は、3歳児クラスで、絵本『のせてのせて』（松谷みよ子、東光寺啓）を使用しながら、子どもたちが絵本の登場人物になりきって、四分音符、八分音符、二分音符で歩くというものである。子どもたちが長い耳を両手で作り、楽しそうに跳ねていたり、身体の動きをできるだけ小さくして、ねずみを表現しようとしている姿に、学生らはとても興味を持ち、優しい眼差しで映像に見入っていた。

次に、童謡『山のワルツ』（作詞：香山美子、作曲：湯山昭）を使い、りす、やぎ、くま、そして幼稚園の先生役に分かれ、学生らに実際に演じさせた。動物役は、それぞれどんな様子で登園してくるのか考え、表現すること。その際、足の動きは必ず指定のリズム（基礎リズム）であることとした。また、音楽が途中で止まった時には、足の動きを止め、何かその動物らしい仕草をすることとした。幼稚園の先生役は、それぞれの動物が登園した時に、一緒に踊るお遊戯を考え、最後には全員で通して演じた。

学生らは各リズムの音楽に、しっかりと歩調を合わせることに苦労していた。

V ②各リズムのイメージを考える

前回の授業にて創作の目的を伝えた上で、この授業では各リズムの持つイメージを考えてみることにした。

前回の教材を各リズムのイメージに当てはめると以下の様になる。

教材名	♪	♪	♪	その他
絵本 『のせて のせて』	うさぎ	ねずみ	くま	車の運転
童謡 『やまの ワルツ』	やぎ	りす	くま	幼稚園の 先生

その他、筆者が幼児と行う基礎リズムの指導では、以下のイメージを使うことも多い。

テーマ	♪	♪	♪	その他
掃除	雑巾がけ	はたき	掃除機	疲れて 寝る
時計	チクタク	チチチチ	ポーン	壊れる
お手伝い	お茶を 運ぶ	アイス クリーム を運ぶ	ラーメン を運ぶ	大人の 丁寧語 を使う
大工さん	くぎ打ち	ドリルで 穴あけ	ペンキ 塗り	スティック とスカーフ で家作り

学生には、各リズムのイメージを考える上で、

- ・テーマを統一すること
- ・イメージなので、正解にとらわれないこと

を、事前に説明した。

学生から次々に出されたイメージは主に以下の通りである。

各リズムから考えられるイメージ

テーマ	♪	♪	♪
動物	うさぎ	だちょう	ぞう
動物	さる	ひよこ	くま
ドラえもん	ドラえもん	のびた	ジャイアン
遊園地	コーヒー カップ	ジェット コースター	バイキング
海の生き物	まぐろ	ペンギン	くじら
乗り物	電車	バイク	船
保育科の 先生	A先生	B先生	C先生
遠足	歩く	雨が降って 走る	のぼり坂
色	赤	黄色	白
トトロ	ねこバス	まっくろ くろすけ	トトロ
朝食	ごはん	味噌汁	たまごやき
3びきの こぶた	木の家	わらの家	レンガの家

各リズムのイメージがある程度できるようになったところで6人程度のグループを作り、基礎リズムを使った活動を創作し始めた。学生らは、ピアノやキーボードなどの周りに集まったり、スマートフォンでユーチューブの音楽を調べ始めたり、実際に動いてみたりしながら創作のテーマを決め、そこから生まれる各リズムのイメージをどの様にしてつなげ、表現するか活発に話し合っていた。



Ⅵ ③ピアノ伴奏の確認

授業でリトミックを経験した学生のほとんどがリトミックに興味を持ち、将来保育者として活用したいと思いつつも、実際はピアノの伴奏に自信が持てず、活用できずにいることも多い。

リトミックを行うことはピアノを使用せずとも可能であるし、ピアノを置いていない保育園もあるため、筆者は「ピアノを使わないリトミック」も紹介

している。しかし、今回のように、想像を膨らませ、伸び伸びと表現する場面では、やはり表情豊かに伴奏できるピアノという楽器の力は大きい。そこで学生全員、最低限のリトミック伴奏ができ、現場で生かせるようにピアノ伴奏の課題を出し、授業の中でひとりひとり確認した。

今回の基礎リズムの伴奏の場合は、各リズム同士のテンポが一定でなければならない。八分音符は四

分音符のちょうど半分の長さで、二分音符は四分音符の2倍の時間を保つ必要がある。そしてリトミックのためのピアノは、子どもたちの様子を見ながら弾くことが大切であり、鍵盤や手元をあまり見ることせず、更に即時性を高めるためにも即興でリズムを変えることが効果的であるため、今回はできるだけ音数が少なく、確実に弾けるものを課題にした。ほとんどの学生がこの課題をクリアし、リズムを変えた変奏も弾けていたが、各リズム同士の速さが変わってしまう学生が見受けられた。この件については、本稿の最後に考察したい。

Ⅶ ④創作作品発表と感想

第4回目の授業では、これまでの短い時間の中で創作したものをまとめ、発表し合い、それぞれの感想や反省を書いた。

これは、あるクラスの発表内容と考察である。

A グループ

題	♪	♪	♪	歌
「遠足」	お弁当を作る 遠足で歩く	はみがき 雨が降って 走る	お弁当を 渡す クマが 現れる	『にんげん つていいな』

内容と特徴

朝、お母さんが起きてリズム良くお弁当を作り、子どもたちを起こし、表彰式などに使われる、ヘンデルの『見よ、勇者は帰る』の伴奏に合わせて、お弁当が一人ずつ渡される。遠足では『さんぽ』を歌いながら歩き、途中で雨に降られ走ったり、出会ったクマのまねをしたりする。最後は全員で『にんげんつていいな』を歌う。エプロンなどわかりやすい衣装が用意されていた。

考 察

各リズムが2回ずつ使われており、同じリズムでも、ひとつのストーリーの中で表現の仕方が違い、イメージの全く違うところがとても良い。また、演じる学生がピアノ伴奏を順番に代わっており、全員が同じように経験しようとしているところも評価できる。ただし、この作品を発表として行う場合には、最後の歌に振り付けなどの動きがあった方が観ている人がより楽しいだろう。

B グループ

題	♪	♪	♪	歌
「あわてん ぼうの サンタク ロース」	トナカイと サンタが やってくる	プレゼント をそっと 置く	子どもたち が喜んで 走る	『あわてん ぼうの サンタク ロース』

内容と特徴

『ジングルベル』の曲に合わせて、すずを鳴らしながらサンタがやってくる。二分音符でそっと歩きながら、実際にラッピングされたプレゼントを、寝ている子どもたちの周りに置く。朝になり、プレゼントに気付いた子どもたちが喜んで走りまわり、プレゼントを開ける。中にはマフラーや帽子が入っているが、実はまだ夏だったという設定のオチがある。最後に『あわてんぼうのサンタクロース』を歌う時には、すずやタンバリンなどの楽器を使っていた。

考 察

二分音符の表現は、クマやゾウなど大きなもののイメージになりがちであるが、静かにそっと歩くという発想が良い。また、ピアノ伴奏の弾き方もイメージを膨らませることができるものであった。保育で使う場合にも、実際にプレゼント（折紙作品など）や小物楽器を使用すると楽しいだろう。

C グループ

題	♪	♪	♪	歌
「夏の思 い出～林の 公園～」	「だるま さんが転ん だ」でオニ に近づく	数を 数えながら 離れる	オニと追 いかけてこ	『さんぽ』 『にんげん つていいな』

内容と特徴

『さんぽ』を歌いながらお友達の家をまわり、「○○ちゃん、あそぼ」「いいよ」と一人ずつ声をかけ合って仲間を増やしていく。林の公園に着き、鬼ごっこを始める。最初は子どもたちが鬼の周りを二分音符の速さで回りながら数え、10まで数えたら鬼が目覚まし追いかけるという鬼ごっこであるが、次第に「だるまさんが転んだ」の遊びに移行する。しばらく遊んだ後『夕やけこやけ』のピアノ演奏が流れ、「夜ごはん何かな～」「うちはハンバーグ!」「いいな～」というセリフから『にんげんつていいな』の歌詞につなげる。

考 察

他のグループの発表時間が3～4分だったのに対し、この作品は7分半と長めであったが、全体の時間配分も良く、動きが揃い、メリハリもあったため、見ていて飽きない作品だった。練習時間を最大限に使い、熟考を重ねた結果だと思われる。保育では、家をまわって名前を一人ひとり呼ぶシーンで子どもが喜ぶだろう。

D グループ

題	♪	♪	♪	歌
「トトロとゆかいな仲間たち」	小トトロ	ねこバス	トトロ	『となりのトトロ』

内容と特徴

最初にさつきとメイが現れ、小さいトトロから順に呼び、呼ばれたトトロらがリズムに合わせて登場する。中トトロは付点のリズムに合わせてスキップで登場し、大きなトトロは傘を持ってゆっくりと登場した。

考 察

トトロの大きさとリズムが合っていてわかりやすく、低年齢児にも理解しやすいだろう。最後に『となりのトトロ』を歌う時も、同じ振りの繰り返しが多く、低年齢児を意識した場合にはちょうど良い。また、中トトロを四分音符にせず、付点のリズムに

したところが、この作品の色づけになったと評価できるが、低年齢児はまだスキップのできない子が多いため、保育で使う時には考慮する必要があるだろう。

E グループ

題	♪	♪	♪	歌
「おやつ時間」	リス	サル	ゾウ	『ありさんのおはなし』

内容と特徴

「さあ今日はどんな動物が来るかな？」の声かけで、基礎リズムの伴奏に合わせて動物たちがやってくる。動物が舞台の真中に立つと、『ありさんのおはなし』が流れ、その動物らしい振りをする。リスはどんぐり、サルはバナナ、ゾウはリンゴを見つけて食べる。

考 察

他のグループはピアノ伴奏を創作していたが、このグループは、前回の授業で確認した課題伴奏を、動物のイメージに合わせて弾く高さを変えるなどして使用していた。リトミックで表現する時にこの様なピアノ伴奏があることで、イメージをより膨らませることができ、子どもたちも伸び伸びと表現できるだろう。



VIII 全体の考察

今回の「子どもたちが基礎リズムを経験できる表現方法を考え、更にそこに情景やイメージを持たせる」という目的は、ほぼ果たせたものと考えて良いだろう。保育者は日々、忙しい保育の中で新しい指導を取り入れ、多くのイベントをこなしていると思

う。そういった意味では、今回の実質約2時間という準備時間の中で、できる限りのアイディアを出し合い、発表のために集中して練習に取り組み、簡単な衣装や小物を使うなど、より良いものを作ろうとした姿勢は大いに評価できる。また、特に「歌を使うように」と指示したわけではないが、全グループ

が童謡などの歌や踊りを取り入れ、全体をまとめる感じを出そうとしていたことは、保育科の学生らしいと感じた。

今回の取り組みに於ける学生の主な感想は以下の通りである。

- ・リズムに合わせて動くことが楽しいと分かった。
- ・音楽があることで、動きやすく、想像が広がる。音楽の大切さがわかった。
- ・物語になっているので、わかりやすかった。
- ・色々な情景が浮かんできて、想像が広がった。
- ・みんなでアイデアを出し合って作る良い経験だった。
- ・それぞれのグループの工夫の仕方が違っていてもよかった。
- ・クラスのみんなが盛り上げてくれたので楽しかった。
- ・見ていて、思わず一緒に歌ったり踊ったりしたくなる工夫がたくさんあった。
- ・他のグループの様に、見ている人が飽きないようにする工夫が必要だった。
- ・完成できて、達成感を感じた。
- ・子どもにとって身近なものが多く、親しみをもって楽しんでもらえると思う。
- ・子どもたちにも、ただ音符の長さを教えるのではなく、役になりきって動くことで、自然にリズムが身に付くのではないかと思った。
- ・リトミックはとても楽しかったので、就職してから挑戦したいと思った。

今回は子どものために作ったものではあったが、学生自身も想像力を使い音楽を楽しみ、表現することができたようだった。保育者が想像力豊かで音楽を楽しむことができれば、子どもたちにそれを伝えるのは不可能であろう。また、学生らは、上手にコミュニケーションを図りながら、短い時間で作品を完成させた。中でも「それぞれのグループの工夫の仕方が違っていてもよかった」「みんなでアイデアを出し合って作る良い経験だった」「クラスのみんなが盛り上げてくれたので楽しかった」「他のグループの様に、見ている人が飽きないようにする工夫が必要だった」「見ていて、思わず一緒に歌ったり踊ったりしたくなる工夫がたくさんあった」など

という感想は、まさに冒頭で述べた文部科学省の「自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出す」経験だったと言えるだろう。

筆者は保育に於けるリトミックの主な目的は、音楽技術や知識の修得にあるのではなく、子ども自身の生きる力の基礎を育成するものであると捉えている。リトミックを授業の中で教えられるだけでなく、今回の様に学生が主体的に取り組むことにより、リトミックに興味を持ち、上記のような感想が述べられたことは嬉しい点であった。

ただし、伴奏においては、Ⅵで述べた最低限の伴奏ができたとしても、それを子どもの様子を見ながら即興性を持って自由に使いこなすには、まだまだ練習時間や経験が必要であり、今回の授業だけでは決して足りないだろう。この取り組みをきっかけにして興味を持ち、更に自主的に練習する必要があると考える。また、ピアノ伴奏課題の確認の際、各リズム同士の速さが一定でない学生がいたり、発表の際、演じる学生の足の動きがリズムにきちんと合っていない場面もあったので、学生自身ももっと時間をかけて基礎リズムを経験できるように、授業時間配分の工夫の必要性を感じた。

今後も学生の音楽表現力、想像力や創造力を高め、豊かな保育ができるように援助し、実践できるように検討していきたい。

参考文献

黒柳徹子「窓ぎわのトットちゃん」講談社、1981
文部科学省 コミュニケーション教育推進会議「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～『話し合う・創る・表現する』ワークショップへの取組～」2011

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/commu/1294421.htm